

南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

平成29年5月1日

5月号

さいたま市立南浦和小学校

電話 048-861-3781



「育ち」の役目

校長 笹原 秀之

例年になく暑い日が多かった4月下旬でした。校庭に遊びに行く子どもたちも朝から半袖姿が多くなっています。先日も私が「半袖だね。」と言うと、2人の子が「この暑さは半袖ですよ。」「子どもは半袖です。」と言って元気に校庭を走って行きました。その姿が新緑に負けず眩しく見え、自然と笑顔がこぼれました。

さて、突然ですが、もし次のように聞かれたらどのように答えますか？

「卵と鶏、どちらが先なの？」

「卵からかえって鶏になるのだから、卵が先。」

「いや、卵は親である鶏が産まなければ存在しないのだから、鶏が先。」

「でも、その鶏は卵からかえって育つから・・・」いつまでも答えが出

これを「育ち」として考えてみるとどうでしょう。答えは簡単で、鶏が先です。なぜなら、鶏は自分で生きていけますが、卵はそうはいきません。親鳥が卵を温め、しっかり育てなければ雛は育たないのです。

子どもも放っておいては、社会の中で生きる知恵が育たないのです。家庭で、学校で、教えるべきことは教えて独り立ちできる力を身に付けさせなくてはなりません。

教育は、「家庭でしつけられ、学校で学び、地域で育つ。」と言われるように、総合的な営みです。

学校は、知識を身に付けるところです。知識と言っても学力に関わることだけではありません。集団のルールやマナーも教える必要があります。社会の中で生きる知恵として、自分と他者との関わり方を身に付けることは大切なことです。

4月は各クラスでも決まり事を確認してしっかりと定着させ、学びの基礎をつくりあげてきました。このことを土台として、各学年の基礎学力が身に付くよう指導して参ります。

家庭は、人として最も基本的なことを身に付けさせる場所です。これが躰です。しかし、ただしつけようと思ってもうまくいきません。家庭としての機能をしっかり果たしていることが前提となります。その機能とは、①人間の愛情を教えるという機能②子どもを養育するという機能③休息する場という機能です。つまり、保護者が親としての機能を果たすことが躰につながるのです。

南小だより4月号でも示したように、本校の今年度の重点目標で、合言葉として、花に代表される環境整備を目指すことをお知らせしましたが、学校では最大の教育環境は教師です。教師の人間性を高め、指導力を高めていくことができるよう努めてまいります。

ご家庭の場合は最大の環境は親です。ぜひ、お子さんと望ましい親子関係であってほしいと願っております。そのために、次のようなことを確認し、不十分な点は努力してみるといいと思います。①何でも話せる雰囲気を作る。②子どもの立場に立って考える。③親が一致した態度を示す。④親が誠実な生き方を示す。

5月から6月にかけては、「こどもの日」や「母の日」、「父の日」と、家族で「家庭」について考える機会が多くあります。ご家族がお互いに「ありがとう」という感謝の気持ちを大切に、もう1度、「子どもにとっての家庭」を考えてみてはいかがでしょうか。

家庭・学校・地域が、それぞれの役割をしっかりと果たすと共に、協力し合い連携し合ってこそ、子どもたちは健全に育ちます。「すべては子どもたちのために。」力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

